

釜炒り茶および煎茶として品質が優れる 緑茶用新品種「なごみゆたか」

釜炒り茶は、その独特の香気（釜香）とさっぱりした喉ごしが評価され、九州を中心に中山間地域の重要な換金農産物として生産されています。また、最近では本州においても釜炒り茶生産の取組が行われています。これまで、いくつかの釜炒り茶用品種が育成されてきましたが、「やぶきた」以上の品質を持つものがなく、優良品種の育成が課題として残されてきました。宮崎県農業総合試験場茶業支場では、釜炒り茶および煎茶としての品質がやぶきたより優れ、特に、釜炒り茶にすると、従来の釜炒り茶用品種に無い香味を有する緑茶用新品種を育成しましたので、その特性の概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「なごみゆたか」（旧系統名 宮崎 27 号）は、晩生で耐寒性の強い「埼玉 16 号」を種子親、良質で炭疽病抵抗性を有する「福 8」を花粉親として昭和 63 年に交配された実生群の中から選抜された品種です。
2. 釜炒り茶および煎茶としての製茶品質は「やぶきた」より優れており、釜炒り茶に製造すると、これまでの釜炒り茶用品種にない甘い香りとすっきりした喉ごしが感じられます。煎茶としても色沢が良く、香気、滋味ともに優れています。
3. 耐病性は、炭疽病やもち病にはやや弱、輪斑病にやや強です。また、耐寒性は赤枯れに対しては「やぶきた」並みの中ですが、裂傷型凍害に対しては中～やや強です。
4. 一番茶の萌芽期は「やぶきた」より 3 日、摘採期は 1 日遅い中生種です。生葉の収量は、一、二番茶ともに「やぶきた」より多収です。



写真「なごみゆたか」の一番茶摘採期新芽

表 「なごみゆたか」の栽培加工特性

品種名	早晩性	萌芽期 (月日)	摘採期 (月日)	生葉収量(kg/10a)		製茶品質			炭疽病 抵抗性	輪斑病 抵抗性	もち病 抵抗性	赤枯れ 抵抗性	裂傷型凍 害抵抗性
				一番茶	二番茶	釜炒り一番茶	煎茶一番茶	煎茶二番茶					
なごみゆたか	中生	4/2	4/28	392	535	32.5	38.8	33.0	やや弱	やや強	やや弱	中	中～やや強
やぶきた	中生	3/30	4/27	308	346	29.9	36.6	28.5	弱	弱	やや弱	中	中

☆ 活用面での留意点

1. 「なごみゆたか」は、本年 1 月 5 日に品種登録出願公表を済ませました。
2. 本品種は九州各県の中山間地域にある釜炒り茶生産地帯はもとより、全国の茶栽培地帯での栽培が可能です。
3. 輪斑病の薬剤防除は不要ですが、炭疽病やもち病は常発地帯では防除が必要となります。
4. 詳しいことは、宮崎県農業総合試験場茶業支場（TEL：0983-27-0355）にお問い合わせください。
（日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘）